

上大隈宰相書


謹伏聞下再拜獻書相公閣下
善ク天下ヲ制スル者ハ先其大勢ヲ審ミテ而メ後ニ之レカ
謀ラ爲スト想フニ閣下ノ英邁必ラス能ク大勢ヲ駕馭
シ必ラス能ク天下ヲ制スル高策深謀ヲ藏セラルナルハシ
ト多モ 鄙生亦親シク坊間巷衢ノ間ニアリテ能ク民情ヲ
察シ能ク政變ノ實況ヲ審ミセリ焉ソノ國家ノ爲メ
黙シテ止ヘケンヤ敢テ愚ニ衷ヲ陳シテ清聴ヲ請フカト欲ス
抑政治ハ統一ノ力ニアリ統一ノ力堅固ナラサレハ施政良モ
ズル貫通ヲ缺クテ下ナレバ目下政界ノ大政黨ト稱
スル憲政黨ナルモハ其組織其成立堅固ナラサルハ天下
ノ齊一ク唱道スル所ナリ政黨負ノ多數ハ就官ニ狂奔シ
テ愛黨ノ忠念ニ乏ク依リテ以テ阿付鹿角集ノ徒ハ

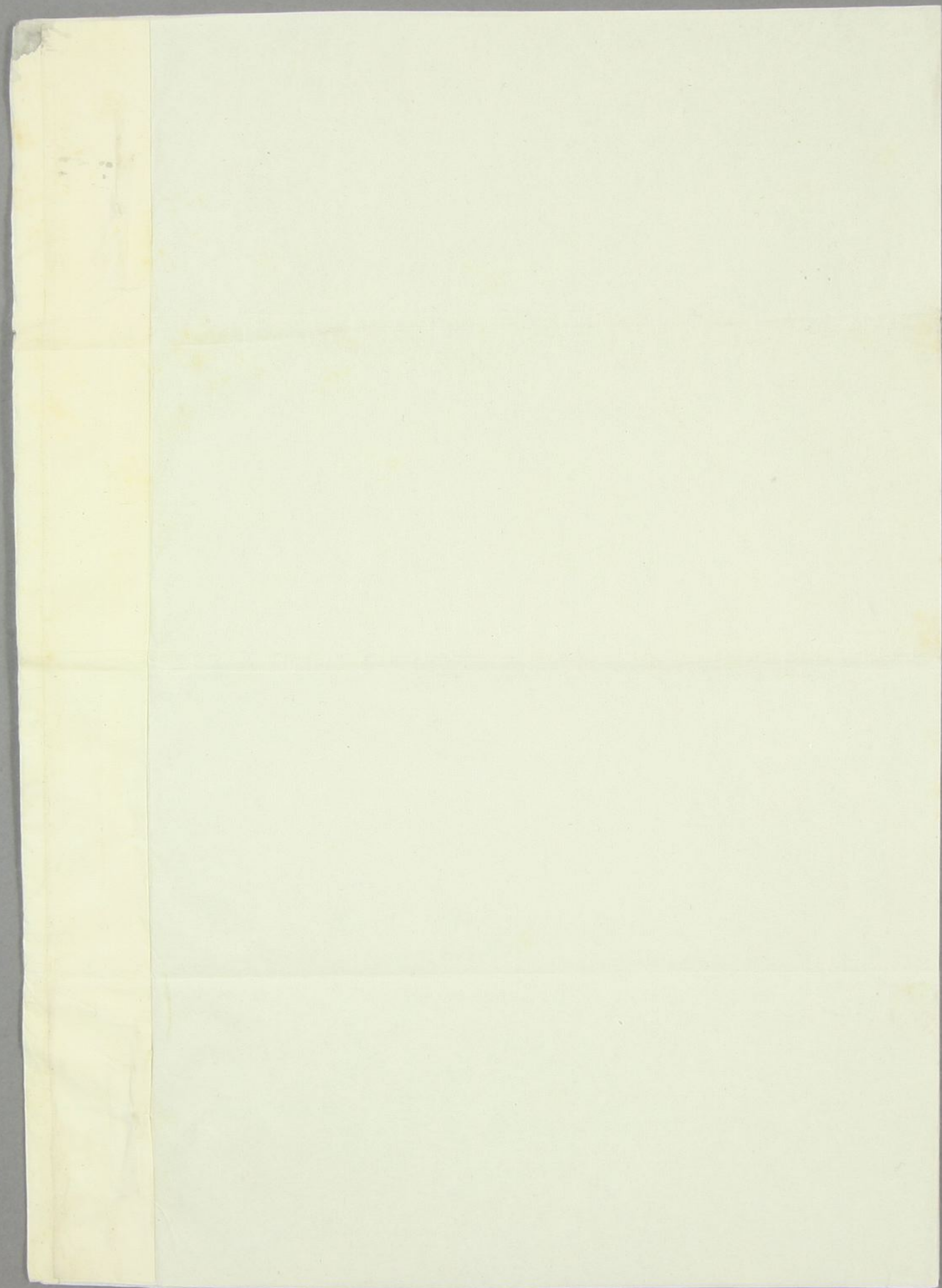
其黨名ヲ利用シテ私慾ヲ逞フセトスルノ状況ナリ
故ニ地方人士如キハ一時附和雷同セシモアリトモ一時其聲
ニ應ジタリ反響音ノ一且聲身熄ミ氣通セサルハ忽馬トシテ
其片影ヲ止サシニ至ルニ到ル依リテ以テ政治ノ基礎トナシ
依リテ以テ統一カラ堅固ニスル所以道ニラス
元来自由黨ナルモノハ往年伊藤内閣ト提携シ無謀
ノ計畫ニ之自從シ國力ニ伴ハサル所ノ財政ヲ承認セリ
今日ノ財政紊乱ハ自由黨大ニ之カ責ニ任セサルヘカラス
彼ノ積極的計畫ヲ贊襄シタル自由黨ハ今日能ク其
罪過ヲ反省シ悔改スルハ到ル之ヲ能クスヤラス要スルニ
其ニ財政ノ整理ヲ談スル能ハサルモト謂フ可シ而シテ
依然今日ノ現況ニアルトキハ歸テ所左顧右眄蓋世ノ
綏綸モ施スニ地ナカラシカ

然ラハ則チ目下ノ憲政黨ハモトハ早晚之ヲ改造セザンカラス今
ノ時ニ方リテハ宜ク之個ノ方針ヲ講スルアリ曰ク志士ヲ糾
合シテ他日改造ノ準備ヲ爲スアリ曰ク目下合同ニ乘シ
速ニ藩閥ノ根莖ヲ拔除スルアリ志士ヲ糾合シテ團結ノ
力ヲ鞏固ニセント欲セム全國ノ要部ニ腹心ノ士ヲ配置シ
シテ地方ノ人心ヲ收攬スルアリ石南ナリトモモ三陸兩羽ノ
方面ハ同志ト共ニ法令任セ當ルニト欲ス其他ノ方面ハ閣
下具適材ヲ撰拔セラシムルヲ
然レモ政黨改造ノ策ハ今日ノ時機宜ク之ヲ秘密ニシ陽
ニ充テテ憲政目下ノ黨名ヲ利用シ極新果法ヲ要スル
ハ藩閥ノ根莖ヲ拔除スルアリ
藩閥ニ屬セル吏僚ハ先天的一種ノ頭腦ヲ有シ到ル憲
政ト融合スルカカモナリ今日ノ時期ニ於テ新然一新セムルハ

永遠改善、美政ヲ國民ニ謳歌セシムル能ハサルナリ
既ニ藩閥ヲ根蓋ヨリ芟除シ大ニ破壞ヲ試ミタルノ曉ハ
則チ大ニ建築ヲ要スル時期ナリ此秋ニ方リ猛然トシテ
天下ニ時勢ヲ志シテ糾合シテ大ニ政黨ノ改造ヲ爲スルキハ
天下ヲ制スルヤ事ヲ及スルキ而已如斯クハ統一ノ力堅固ニシテ
政務ノ伸縮張弛ハ一ニ閣下ノ掌中ニ歸セシムル期運
茲ニ至ル行政ノ整理ヲ期セシテ行政自ラ整理シ財
政ノ際肅ヲ務メシテ財政自ラ際肅スルニシテ治國ノ
要人匡々々ニ制度典章ノ形式ヲスルニシテ天下ノ大勢ヲ審
ミ天下ノ耳目ヲ新ニスルニテアリ新シテ之ヲ行ヒテ鬼神ヲ避ケ
閣下皆勇リテ明室ヲ重シヨ音急ヲ述フルニ急ニシテ禮ヲ失ル
下甚シ謹仰高寬再拜

明治三十年八月十三日

山本平藏 



大正
東京
郵便
局
封
筒
紙
上
の
書
信
紙
に
貼
り
付
け
ら
れ
た
切
手
と
印
の
写
し
を
示
す
。

988



東坡子夜歌
江北
江北
江北
江北

江北

